

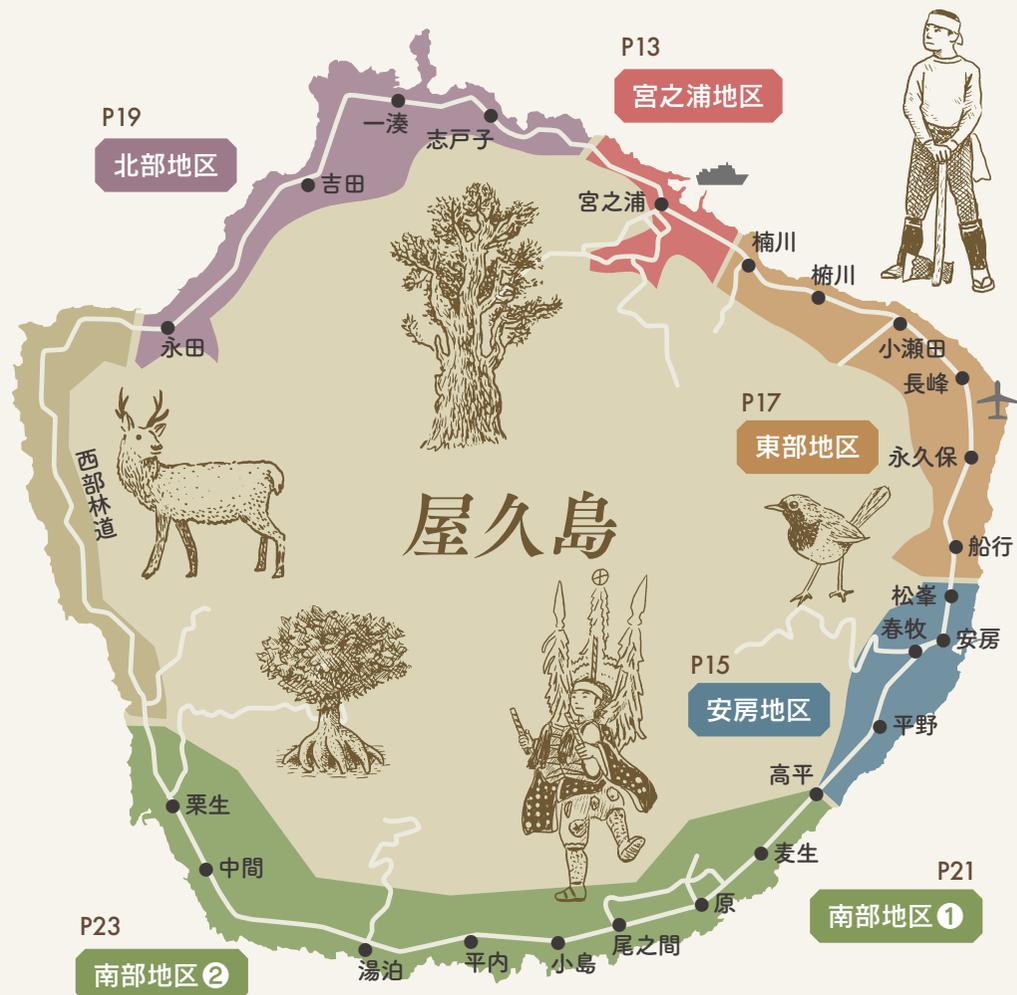
屋久島の歴史と文化を感じる旅へ。

The History and Culture of Yakushima

山と森がはぐくみ、26の集落が紡いだ歴史・文化のものがたり

INDEX

太古の成り立ち	03
屋久杉と林業の文化遺産	05
山岳信仰と精神文化	07
多様な伝統芸能と地域文化	09
海と山の恵みが織りなす食文化	11
エリア情報 / 屋久島 宮之浦	13
エリア情報 / 屋久島 安房	15
エリア情報 / 屋久島 東部	17
エリア情報 / 屋久島 北部	19
エリア情報 / 屋久島 南部	21
エリア情報 / 口永良部島	25
屋久島の歴史と文化を感じる!モデルコース	27
屋久島への行き方・島内交通	裏表紙



屋久島と口永良部島からなる屋久島町には現在26の集落があります。

いずれの島も険しい山々や深い森が広がり、

かつては隣りの集落へ行くことさえ容易ではありませんでした。

そのため、島での暮らしは集落を中心に営まれ、

その小さな世界の中で独自の歴史や文化を育んできました。

集落ごとに受け継がれてきた伝統は、人々の行き来が容易になった今も息づいており、

集落を歩けば、島の歴史と人々の暮らしが重ねてきた豊かなものがたりが、

静かに広がっています。



太古の成り立ち（花崗岩が隆起した島） ～縄文時代からの人の暮らし

Yakushima's Geological Roots and Early Human Life



大地の時間が生んだ、 屋久島の“かたち”

屋久島は、今からおよそ1,550万年前、地下深くにあったマグマがゆっくり冷えて固まった「花崗岩（かこうがん）」のかたまりが、少しずつ地上に顔を出してできた島です。つまり、火山の噴火で生まれたのではなく、地球の“押し上げる力”によってできた、ちょっと特別な島なんです。

中央部には、九州で一番高い「宮之浦岳（みやのうらだけ・1,936m）」をはじめとする高い山々が連なり、まるで島全体が岩のかたまりのよう。実際に、屋久島には平らな土地がとても少なく、山の斜面や溪谷が多いのが特徴です。特に、島の南部にある「千尋の滝（せんびろのたき）」は、巨大な一枚岩を豪快に

流れ落ちる滝で、花崗岩の大地がむき出しになった様子を目の当たりにできるスポット。ここでは、何万年、何百万年とかけて形づくられた、島の“地球の時間”を感じることができます。

この“硬くて風化しやすい”花崗岩のおかげで、屋久島では深い谷や豊かな森、透きとおった川など、独特の自然風景が生まれました。大地の成り立ちを知ることで、屋久島の自然の奥深さが、きっともっと面白く見えてくるはず。また、屋久島の安房川では、リバーカヤックを楽しみながら、花崗岩が長い年月をかけて侵食されてできた美しい溪谷や奇岩の景観を間近に体感できます。川面から眺める自然は格別で、静かな流れの中で島の成り立ちを感じることができる、おすすめのアクティビティです。



千尋の滝



安房川カヤック



横峯遺跡

人が暮らしはじめたころ

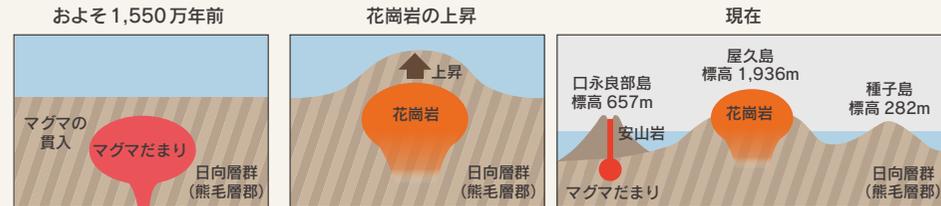
自然とともに生きた、むかしの人びと

屋久島に人が暮らし始めた時期は、はっきりとは分かりませんが、少なくとも1万数千年前には既に人が生活していたと考えられています。ですが約7,300年前、鬼界カルデラの大噴火があり、一度人々の営みは途絶えることとなります。その後、再び人の暮らしの痕跡が現れるのは、約6,000年前の松山遺跡からです。さらに、約4,000年前から600年ほど栄えた横峯遺跡では、当時の暮らしを特徴づける石器が数多く出土しており、木の実を食べるための磨石や石皿、木を伐るための石斧など、照葉樹林の恵みとともに生きていた屋久島縄文人の姿が想像できます。町の歴史民俗資料館では、こうした太古の暮らしぶりを伝える展示を見ることができます。自然と結びついた暮らしの知恵や感覚を、今に伝えてくれる場もあります。自然とともに生きるという感覚。それは、今の私たちにも響く、屋久島の大切な文化なのかもしれません。

屋久島をのみこんだ 大噴火

九州を覆った火山の記憶

約7,300年前、屋久島の北西にある鬼界カルデラで起きた大噴火は、日本の歴史の中でも最大級といわれています。火山灰はなんと東北地方まで届き、屋久島は厚い火山灰や火砕流に覆われました。そのため、しばらく人が住めない「無人の時代」があったと考えられています。いま島を歩くと見える豊かな森や遺跡の下には、その大噴火の痕跡が眠っています。自然の力の大きさと、人々が再びここで暮らし始めた歴史を感じてみてください。



約1,550万年前、地下深くにマグマが入り込み、冷えて花崗岩となりました。その花崗岩が押し上げられ、現在の屋久島の高い山々が形づくられました。図は、その変化の流れを3つの時代で示しています。

いのちの島のはじまり

生命を迎え入れた島のものがたり

海底から隆起した花崗岩は、やがて風雨にさらされて砕け、砂となり、繰り返される周囲の火山活動で降り積もった火山灰と混ざり合っ、土壌が少しずつ形成されていきました。その土の上に、海流や渡り鳥によって運ばれてきた種子が芽吹き、

微生物や昆虫、小動物たちが加わることで食物連鎖が生まれ、多様な生態系が形づくられていきます。

約1万年前まで続いた氷河期には、屋久島は種子島とともに九州と地続きとなっており、さまざまな動植物が島へと渡ってきたと考えられています。その後、氷河期の終わりとともに島は再び海に囲まれ、取り残された動植物は独自の進化を遂げ、ヤクシカをはじめとする固有種や亜種が誕生しました。



屋久島の歴史と人々の暮らしを学ぶ

屋久島町歴史民俗資料館 [MAP P13 ㊦]

縄文時代から現代まで、屋久島の歩みと人々の暮らしを、土器や農具、漁船などの実物資料とパネル展示でたどります。口永良部島より移築・復元した網代小屋など、島の生活文化を体感できる展示も見どころです。

[所在地] 屋久島町宮之浦1593 [営業時間] 9:00～17:00
[休館日] 月曜、年末年始 [電話] 0997-42-1900

屋久杉と林業の文化遺産

Yakusugi and Forestry Cultural Heritage



屋久杉の伐採と保護

木と共にある島の暮らし

屋久島に広がる深い森。その主役ともいえる屋久杉は、島の標高500m以上の山地に自生する樹齢1,000年以上の杉を指します。栄養分が乏しい花崗岩の山地で、非常にゆっくりと成長するため、木目は緻密で、樹脂を多く含み腐りにくいという特徴があります。

山の奥に育つ屋久杉は古くから信仰の対象とされ、容易に伐ることはありませんでした。しかし、安土桃山時代になり、島津氏が勢力を強めると、建築用途を目的として屋久杉の伐採が始まります。その後、島津氏は屋久杉を重要な資源と位置づけ、

江戸時代初期には屋久杉を“年貢”として制度化しました。こうした伐採は幕末まで続き、結果として、5~7割もの屋久杉が失われたと推定されています。

屋久島で山仕事に従事する人を指す「山師(やまし)」と呼ばれる人びとが森に入り、伐採から搬出までの仕事を担っていました。明治以降、伐採事業は国の管理下となり、大正時代には森林軌道も敷かれ、伐った杉が鉄道で運ばれるようになりました。いまでは伐採は終了し、屋久杉は再び大切に守られる存在に。けれど、森の奥には今も、当時の線路跡や山師たちの暮らしの痕跡が静かに残っています。自然を活かしながら共に生きてきた人びとの営み——それも、屋久島の大切な文化です。

屋久杉とともに生きた山師たちの記憶

伐採された屋久杉や薪炭材を港まで運ぶための森林軌道は、安房・宮之浦・永田・栗生の4か所に敷設されました。また森林軌道沿いには拠点となる林業集落がつくれ、職員や山師とその家族などが暮らしていました。特に安房川の上流の小杉谷一帯(小杉谷・石塚集落)には、小中学校をはじめ、郵便局や床屋、商店などもあり、最盛期には500人を優に超える住人が生活していたと言われています。

伐採する木材の減少に伴い、いずれの集落も昭和40年代までには閉鎖されましたが、当時の建物や軌道の跡などの遺構は現在も残っており、森とともに歩んだ山師たちの営みを今に伝えています。小杉谷集落の跡は縄文杉へ向かうトロッコ道の途中にあり、小中学校の校庭跡や記念碑があります。また4つの森林軌道のうち安房森林軌道は日本で唯一現役の森林鉄道として、今も水力発電所の管理などで利用されています。

これらの屋久島林業史を物語る「屋久島の林業集落跡及び森林軌道跡」と「旧鹿尻島貯木場：屋久杉等海上輸送施設遺構」は、(一社)日本森林学会により「林業遺産」として認定されています。



屋久杉自然館

屋久杉を知ることは、屋久島の森を知ること。

屋久杉自然館 [MAP P15◎]

屋久杉自然館は、屋久島の森を訪れる前にぜひ立ち寄りたい、屋久杉をテーマにした博物館です。屋久杉と伐採の歴史、人々との関わり、土埋木と工芸まで、模型やジオラマ、CG、パネル展示でわかりやすく紹介しています。

[所在地] 屋久島町安房2739-343
[営業時間] 9:00~17:00(最終入館は16:30)
[休館日] 第一火曜、年末年始(12/29~1/1)
[電話] 0997-46-3113

写真提供 (P6掲載の古写真4点)：屋久島森林生態系保全センター



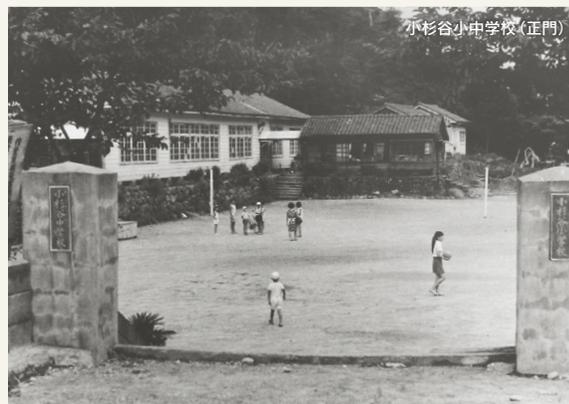
小杉谷製品事業所跡にある記念碑



平木を使った宿舎(小杉谷)



屋久杉の集材(昭和20年代)



小杉谷小中学校(正門)



小杉谷の風景



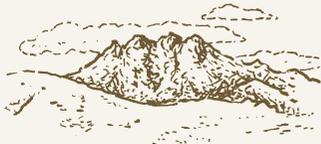
岳参り(宮之浦岳頂上)



牛床詣所

山岳信仰と精神文化

Spiritual Heritage Rooted in Yakushima's Sacred Mountains



屋久島の山岳信仰「岳参り」

屋久島は島の約9割を山地が占め、人々は海岸沿いの平地に点在する集落で暮らしてきました。かつて集落間は険しい山や川に隔てられ、道路や橋が整備される以前は互いの交流も限られていました。そのため、それぞれの集落が独自の歴史や文化を育んでおり、今も多彩な祭りや伝統行事が受け継がれています。

そうした文化のひとつに、島の山岳信仰を象徴する「岳参り(たけまいり)」があります。岳参りは、集落ごとに定められた山へ登り、山の神に感謝を捧げる伝統行事で、島内各地で今なお続けられています。その起源はおおよそ500年前とされ、集落ごとにルートや儀式が異なるのも特徴です。

たとえば宮之浦集落では春と秋の年2回、益教神社での祈願を経て、海辺の砂を竹筒に入れ、それを山の祠へ納めるという儀式が行われています。この「海の砂を山へ返す」行為には、海と山がつながるといえるでしょう。島人の自然観が表れているといえるでしょう。

かつては信仰と修行を兼ねた数日間の巡礼として、前岳からさらに奥岳(宮之浦岳、永田岳など)まで登ることもあったようですが、現在では日帰りで実施されることがほとんどです。それでも険しい山道を登る行程には敬意が払われており、集落の人々は若者たちの参加を促しながら、代々その信仰と営みを守り継いでいます。また岳参りは、屋久島の自然と共に生きる知恵と祈りの文化を今に伝えるだけでなく、屋久島に暮らす人々の精神文化の根幹を成す重要な要素の一つになっています。

集落それぞれの信仰を 今に伝える神社

屋久島には、各集落にそれぞれの暮らしや文化に根ざした神社があり、山や海、そして人々の営みに寄り添うように祀られてきた神々は、屋久島独自の精神文化を今に残す存在です。神社はまた、集落の歴史や文化、そして人と人とのつながりを育む場でもあります。たとえば、十五夜の綱引きや多くの民俗芸能は、神に祈りを捧げると同時に、地域の絆を深め、世代を超えて受け継がれる大切な行事となっています。

屋久島全体を見守る総社的存在として、また島で最も古くからあるとされるのが益教(やく)神社です。「山幸彦」で知られる彦火火出見尊(ひこほほでみのみこと)をはじめとする山・海の神々7柱が祀られています。屋久島には益教神社から分霊した神社も多く、明治維新までは集落名を冠した益教神社が18社ありましたが、今は宮之浦の本社と原集落のみとなっています。18社の一つで

あった八幡嶽神社は漁業が盛んな一湊集落にあり、地域の人びとの願いが反映されたのか、「漁業と縁結びの神様」として知られています。各集落にある神社は、そこで暮らす人々の祈りや思いを受け止めながら、地域の精神的な支えとして今も大切に受け継がれています。

また、山岳信仰と深く結びついた聖地として大切にされてきたのが「詣所(もいしょ)」です。これは山と里の境界に設けられた場所で、女人禁制のため岳参りに参加できない女性や子どもたちが、山の神を遥かに拜んだ、いわば里における信仰の場でした。特に宮之浦集落の牛床詣所は、屋久島の山岳信仰を象徴する場で、苔むした石段や祠は静かな神聖さをたたえています。

これらの神社や祈りの場は、それぞれの集落が自然とともに歩んできた歴史と暮らしの記憶を伝える存在です。屋久島の旅で神社を訪れることは、単に観光地をめぐるのではなく、地域に息づく精神文化にふれる体験ともいえます。



森に抱かれた、神聖な場所 牛床詣所 [MAP P130]

白谷雲水峽へ向かう道から脇道に入った先、静かな森の中に佇む牛床詣所。苔むした二体の仁王像は屋久島町の史跡に指定されています。

[所在地] 屋久島町宮之浦
(牛床公園バス停から徒歩約10分)

多様な伝統芸能と地域文化

Traditional Performing Arts and Local Culture of Yakushima

屋久島の心を映す伝統芸能

屋久島の各集落には、それぞれ特色ある踊りや祭りが伝承されています。

県の無形民俗文化財に指定されている安房集落の「如竹踊り」は、「屋久聖人」とも称される安房出身の儒学者・泊如竹(とまりじょちく)が島民に教えた踊りと伝えられ、武士の姿をした男性によって踊られます。如竹の功績を称え、五穀豊穡や無病息災を祈る象徴として大切に受け継がれています。

また屋久島の「盆踊り」は、集落ごとに曲や歌詞、踊り方、さらには踊る場所まで違うのが特徴です。楠川集落の「楠川盆踊り」は7つの踊りで構成されており、低い姿勢で、同じ側の足と手をそろえて踊ります。麦生集落では鹿児島島地方で広く見られる棒踊りの一つ「なぎなた踊り」を盆踊りとして伝承しています。

永田集落で行われていた「トビウオ招き」は豊漁を祈願する儀式で、トビウオを呼び寄せるため、女性の演者が歌いながら、菅笠や色のついた吹き流しで飾られた笹竹を振り、祈りました。この儀式に似たものは奄美大島や台湾付近の島々でも見られ、女性が霊力を持つとされる琉球文化に通じる祭祀と言われています。現在、永田集落でのトビウオ漁は途絶え、行事としては行われていませんが、地元の保存会の

方たちにより催事などで披露しています。

そして屋久島の祭りで欠かせないのが「綱引き」です。綱引き行事は広く世界で行われていますが、アジアでは南九州や沖縄が最も盛んと言われており、屋久島でもほぼ全ての集落で継承されています。またほとんどが旧暦8月の「中秋」に行われ、「十五夜綱引き」として知られています。屋久島では中間集落や栗生集落の綱引きが有名で、集落の五穀豊穡や家内安全を祈願して行われます。

この他にも原集落の「ごちよう踊り」や湯泊集落の「笠踊り」など、様々な芸能が伝承されており、それぞれの地域の人々の暮らしや歴史、自然とのつながりを映し出しています。またこれらの芸能には、かつて薩摩や琉球といった周辺地域との交流の中で育まれた文化的影響も垣間見ることができ、それらが重なり合いながら、今の屋久島らしい多様な地域文化として息づいています。

一方で、人口減少や高齢化により、こうした伝統芸能の継承は大きな課題を抱えています。近年では、地域の保存会や学校、行政が協力して次世代への継承活動を活性化させています。伝統芸能のワークショップや地域祭りへの参加促進など、多様な取り組みを通じて、屋久島の豊かな文化遺産を未来に繋げる努力が続けられています。



トビウオ招き



十五夜綱引き



ごちよう踊り



地域文化に深く根付いた

「えびす信仰」

屋久島で敬われるえびす様は、海上の無事や豊かな漁、商いの繁りを願う祈りの中心で、島では「えべすさま」「よべすさま」とも呼ばれます。港の近くで豊漁を授ける神を祀る「浜えびす」、集落の中で作物の実りを願う「村えびす」「町えびす」があり、浜えびすは海を望む場所に据えられ、造りや色、顔つきも土地ごとに異なります。江戸期にカツオ漁とともに伝わった信仰が根づき、自然への感謝と畏れを込めた祈りとして継承されてきました。

江戸後期にトビウオ漁が盛んになると、祈願の対象も広がり、魚を抱くえびす像はカツオ漁、海から拾った自然石を祀るかたちはトビウオ漁の守り神として拝まれるようになります。各集落では「えびす祭り」や「トビウオ祭り」が行われ、豊漁や航海安全、商売の繁栄を願いました。永田集落の「トビウオ招き」は、このえびす祭りに続く儀式で、祈りと芸能が結びついた象徴的な催しでした。

文化体験の入口としての 拠点や取り組み

こうした多様な文化を実際に体験し、理解を深める場として、「屋久島環境文化村センター」や「里めぐり」ツアーが注目されています。環境文化村センターでは、映像や展示を通じて屋久島の自然と文化の関係を学ぶことができ、初めて訪れる人にとって格好の導入となります。また、語り部(地元案内人)と歩く「里めぐり」では、各集落の暮らしや伝統行事に触れることができ、観光だけでは出会えない島の文化の本質に触れる貴重な体験が得られます。

「里めぐり」ツアーのお問い合わせ

屋久島里めぐり推進協議会

[電話] 0997-42-2900

(屋久島環境文化村センター内)



屋久島と西郷隆盛

明治維新の英雄・西郷隆盛は、実は屋久島にも足跡を残しています。1862年、奄美大島からの帰路にあった西郷は、まず屋久島の一湊へ立ち寄りました。ここで風待ちのため数日間滞在し、港近くに今も「西郷隆盛上陸の地」の碑が残されています。当時の様子は同行していた村田新八が記した『宇留満乃日記』に残され、旅の記録として伝わっています。さらにその後、西郷は口永良部島にも立ち寄り、島の人々に財布やふんどしなどを贈って感謝の気持ちを表したと伝わります。島には西郷さんが好んで座った石や湯あみをした温泉などのエピソードも残り、地元の人々に今も語り継がれています。自然豊かな屋久島と、その隣に浮かぶ火山島・口永良部島。西郷が過ごしたひとときに思いをはせながら歩くと、旅の風景に歴史の彩りが加わります。



西郷隆盛上陸の地 石碑

[MAP P19⑩]

[所在地]

屋久島町一湊(東側入り口三叉路)

海と山の恵みが織りなす食文化

Discover the Authentic Flavors of the Island

豊かな森と清らかな水、黒潮流れる海に囲まれた屋久島。ここでは自然とともに生きてきた人々の知恵が、独自の食文化となって今に受け継がれています。海と山の恵みに支えられた食卓は、素朴で滋味深く、どこか懐かしさを感じさせてくれます。訪れた人にとっては、新鮮な驚きと出会いの連続でもあります。



“超軟水”で仕込む 屋久島焼酎

屋久島の豊かな海の幸と相性抜群なのが、屋久島のおいしい水で造られた焼酎です。年間を通して雨が多く、湿潤な気候に恵まれた屋久島では、その雨水が花崗岩層を長い時間かけてろ過され、「超軟水」として湧き出します。ミネラル分がほとんど含まれないこの清冽な水は、焼酎の仕込みに理想的で、まろやかで雑味のない味わいを生み出します。

島内で焼酎造りを手がける蔵元のひとつが「三岳（みたけ）」の銘柄で知られる三岳酒造です。「三岳」の名前は、屋久島の山岳信仰由来しており、島の中央に連座する宮之浦岳・永田岳・黒味岳の3つの山々にちなみ付けられました。屋久島の名水を使ったそのやさしい飲み口は、島内外で高い人気を

誇り、長年にわたって地元の食卓や晚酌の場に親しまれてきました。観光客の間でも「屋久島といえば三岳」といわれるほどの定番銘柄で、島内の飲食店や土産物店で見かけることができます。

さらに島の東部、春牧集落にある本坊酒造の「屋久島伝承蔵」では、屋久島の自然と伝統に根ざした焼酎造りの現場を見学できます。蔵内では、蒸留や仕込みの工程を間近に見学できるほか、限定商品の試飲や購入も可能。島限定の銘柄も多く揃っており、ここでしか出会えない味との一期一会が楽しめます。

焼酎のまろやかな口当たりは、脂ののった首折れサバの刺身や、香ばしく焼き上げたトビウオ、そして素朴な味わいのつけあげなど、素材の持ち味を活かした島料理と絶妙に調和。冷やしてロックで、あるいは水割りやお湯割りで、料理に合わせて楽しむのも魅力のひとつです。屋久島の自然が育んだ一杯、海の恵みとともに、じっくり味わってみてください。

名水、名酒を生む 三岳酒造 [MAP P15⑨]

人気の芋焼酎「三岳」の製造元。訪問日前日までの電話申し込みにて工場見学ができます。見学は製造期間にあたる9月から12月がおすすめです。

[所在地] 屋久島町安房2625-19
[定休日] 不定休(電話受付は平日の7:45~17:15)
[電話] 0997-46-2026



昔ながらの手作り甕壺仕込み 屋久島伝承蔵 [MAP P15⑩]

国産和甕と人の手仕事を守り、良質な酵母と麹が交える昔ながらの焼酎造りが特徴です。

[所在地] 屋久島町安房2384
[営業時間] 9:00~12:00 / 13:00~16:00 ※最終受付15:30
[休館日] 12/29~1/3 ※臨時休業有り
[電話] 0997-46-2511 ※見学は必ず事前にご予約ください。

首折れサバに、トビウオ。 海の恵みを味わう



屋久島を代表する地魚といえば、ゴマサバです。中でも名物「首折れサバ」は、ゴマサバを一本釣り後すぐに首を折って血抜きし、鮮度を保つ技法で処理されたもので、明治時代に一湊集落の漁師が考案。刺身でも食べられるほどの鮮度が特徴です。かつては東京の築地市場でも人気でしたが、現在は漁獲減や担い手不足により、ほとんどが島内で消費される貴重な地魚となっています。そしてゴマサバを加工し作られるのが、屋久島を代表する特産品「サバ節」です。香り高くコクのある出汁が取り、このサバ節を使った味噌汁や煮物は、島の家庭料理の定番であり、どこか懐かしい味わいが魅力です。サバ漁が盛んな一湊集落には今も2軒のサバ節工場があり、伝統の技法を今に伝えています。

屋久島の夏を象徴する魚は「トビウオ」です。屋久島では年間を通して漁獲され、特に5~6月が旬。刺身や塩焼き、から揚げの他、干物にしても風味がよく、保存食としても重宝されてきました。すり身を揚げた「つけあげ(さつまあげ)」も人気です。



日本一早い春の味わい屋久島茶

森を潤す豊かな雨と清らかな水、そして霧に包まれる山々の気候が、お茶づくりに理想的な環境を生み出しています。屋久島では、全国に先駆けて3月下旬~4月上旬ころには新茶の収穫が始まります。日本で最も早く味わえるこの新茶は、鮮やかな緑色とまろやかな旨味、そして爽やかな香りが特徴です。渋みが少なく飲みやすいため、幅広い世代に親しまれています。特に多く栽培されているのが、旨味が強く高級茶にも用いられる希少品種「さえみどり」。自然に寄り添った栽培によって、そのやわらかい甘みと上品な味わいがいっそう引き立ちます。森の空気に包まれて飲む一杯は、旅のひとつを特別にしてくれる贅沢な味わい。屋久島を訪れたら、島の自然とともに育まれた屋久島茶をぜひお楽しみください。

島を彩る柑橘 — ぽんかん・たんかん



島の温暖な気候と傾斜地の多い地形、そして昼夜の寒暖差が、果実に濃厚な甘みと香りを与えました。屋久島は、日本で初めてぽんかん栽培が成功した地で、大正時代に台湾から苗木が持ち込まれ、以来100年にわたり島の特産として受け継がれてきました。冬の訪れとともに実るぽんかんは、外皮はしっかりしていますがむきやすく、香り高くジュースで、昔から島の人々に親しまれています。屋久島を代表するもうひとつの柑橘が、たんかんです。ぽんかんとネーブルオレンジの自然交配から生まれたとされるこの果実は、甘さと酸味のバランスが絶妙で、たっぷりの果汁と芳醇な香りが特徴。屋久島では2月から3月に収穫の最盛期を迎え、春を告げる味覚として観光客にも人気です。地元ではジュースやジャムなどの加工品にも活用され、旅のお土産としても好評です。



トビウオの刺身



屋久島焼酎



屋久島茶



たんかんの収穫

宮之浦

Miyanoura

鹿児島からのフェリーや高速船、また口永良部島とを結ぶフェリーも入港する宮之浦港のある屋久島の玄関口。屋久島最大の集落で、島民の約4分の1が暮らしています。屋久島最古と言われる益救神社など歴史的な見どころも豊富です。



宮之浦地区



島を知る、旅のはじまり。

屋久島環境文化村センター [MAP②]

屋久島の自然と文化を総合的に学べる施設。大型映像ホールでは大スクリーンに映し出される迫力の映像で、島の自然をダイナミックに体感。展示ホールでは、海から里、森、そして山頂へと続く屋久島の環境を模型やパネルでわかりやすく紹介します。

【所在地】屋久島町宮之浦823-1
 【営業時間】9:00~17:00 (展示ホールへの入場は16:30まで)
 【休館日】月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始(12/28~1/1)
 ※4/29~5/5、7/20~8/31の間は休館しません。
 【電話】0997-42-2900

島民が崇敬する鎮守の宮 益救神社 [MAP①]

927年編纂の「延喜式」にも記載がある古社。別名「救いの宮」とも呼ばれ、「宮之浦」という地名の由来に。境内の仁王像は、廃仏毀釈の際、村人が穴を掘って隠した貴重なもので町の文化財に。御朱印もいただけます。

【所在地】屋久島町宮之浦277 [電話] 0997-42-0907



ウミガメの世界を探求しよう！ 屋久島うみがめ館 [MAP③]

ウミガメの生態を写真やパネル、剥製などを通じて学ぶことができる展示施設。

【所在地】屋久島町宮之浦805-1
 【営業時間】9:00~17:00 (最終入館16:30まで)
 【休館日】月曜(GW及び夏休み期間中は除く)
 【電話】0997-47-1800



鐘つき体験もできます！ 久本寺 [MAP④]

1488年、京都・本能寺の高僧、日増上人によって開山されたお寺。日増上人自らが奉じたとされる曼荼羅は、現在も折に触れて公開されています。鐘撞体験も可能です。御朱印もいただけます。

【所在地】屋久島町宮之浦1553-3 [電話] 0997-42-0306



約60種6万本を育成！

屋久島総合自然公園・野生植物園 [MAP⑤]

[MAP⑤]

宮之浦川近くにある約8haの植物公園。園内の野生植物園では、屋久島の花「ヤクシマジャクナゲ」などの高山植物や固有種が育てられ、展示販売もされています。

【所在地】屋久島町宮之浦2077 [営業時間] 8:30~17:00
 【定休日】12/29~1/3
 【電話】0997-42-2727 (管理棟)



「屋久島縄文水」の生産工場 南日本酪農協同(株) 屋久島工場 [MAP⑥]

多くの屋久杉を育み、「日本名水百選」にも選ばれている宮之浦岳流水をボトルングした「屋久島縄文水」の工場。硬度約10mg/Lの超軟水でまろやかな口当たりが特徴です。

【所在地】屋久島町宮之浦2211
 ※見学については事前にお問い合わせください。
 【電話】0997-42-2323
 (受付8:00~17:00 / 土・日曜・祝日・年末年始除く)



創業60年以上の人気菓子舗 新月堂菓子店 [MAP⑦]

島に自生するよもぎを使った名物「よもぎだんご」や、ロングセラーの「よもぎ煎餅」など屋久島ならではの菓子が揃います。

【所在地】屋久島町宮之浦94 [営業時間] 8:30~19:00
 【定休日】日曜 [電話] 0997-42-0131



安房

Anbou

安房・春牧・
松峯・平野

屋久島の東部、島最大の河川・安房川を中心に発展したエリア。安房は島の林業発展に貢献した泊如竹の生まれた場所で、かつては屋久杉の積出港として栄えました。伐採拠点・小杉谷から安房まで設けられた森林鉄道は、現存する唯一のものとして日本近代化産業遺産に指定されています。



「屋久聖人」を祀る **如竹神社(如竹廟)** [安房] [MAP①]

屋久杉材の利用に多大な貢献をしたと言われる安房出身の儒学者・泊如竹(1569-1655)を祀る神社。当時、屋久杉など山奥の杉には神が宿ると信じられており、ほとんど伐られることはありませんでした。島民の暮らしを案じた如竹は屋久杉の伐採を藩に献策。また祟りを恐れる島民には「神から許しを得た」と説得し、伐採を進めました。その結果、島民の暮らしが安定し、「屋久聖人」と称えられることに。命日の旧暦5月25日には、如竹が教えたと伝わる「如竹踊り」が奉納されます。

[所在地] 屋久島町安房(安房港から徒歩約3分)



写真提供: 環境省

屋久島の森へ行く前に、立ち寄りしたいスポット 屋久島世界遺産センター [春牧] [MAP②]

屋久島世界自然遺産と屋久島国立公園の魅力を五感で学べるビジターセンター。自然の成り立ちや環境保全の取り組み、登山時のマナーまで分かりやすく紹介しています。

[所在地] 屋久島町安房2739-343 [電話] 0997-46-2992
[営業時間] 9:00~17:00(入館は16:30まで)
[休館日] 年末年始(12/29~1/3)

島の成り立ちを感じる

滝之川の一枚岩 [春牧] [MAP③]

健康の森公園から歩いて行ける穴場スポット。約4,000万年前に堆積したと言われる日向層群の堆積岩が露出しており、その上を川が流れています。大きな平べったい一枚岩で、水量が少ない時は岩の上を歩いたり、寝そべったりすることもできます。

[所在地] 屋久島町安房(健康の森公園陸上競技場の駐車場からすぐ)



国の近代化産業遺産 安房森林軌道トロッコ発着所

[安房] [MAP④]

屋久島で最も大きな「健康の森公園」の北側にあるトロッコ発着所。今も現役で使われているため、許可無しでの立ち入りはできませんが、「里めぐり」ツアー(p10)の利用で見学することが可能です。

[所在地] 屋久島町安房2740(健康の森公園)
[電話] 0997-42-2900(屋久島里めぐり推進協議会)



「夫婦アコウ」が見もの！ 盛久神社 [春牧] [MAP⑤]

平家の武将・平盛久ゆかりの神社。伝承によれば、安徳天皇が落ち延びた薩摩硫黄島から屋久島へ渡る船中で病没した盛久を祀ったものと言われています。境内には樹齢100年を超える夫婦アコウの巨木があり、良縁スポットとして有名。

[所在地] 屋久島町安房2384-5(春牧福祉館)
※神社は福祉館の裏手。

毎日の暮らしで使いたい！屋久島グッズ YAKUSHIMA BLESS [松峯] [MAP⑥]

屋久杉工芸店の老舗「武田館」に併設する、屋久杉と環境をテーマとした土産物店。屋久杉のお香や石けんなどオリジナル商品を販売。また屋久杉を磨いて、キーリングや輪挿しなどに仕上げるワークショップも行っています。

[所在地] 屋久島町安房650-18 [営業時間] 9:00~17:00
[定休日] 不定休 [電話] 0997-46-2899



生ハム風くんせいが人気！

けい水産 [春牧] [MAP⑦]

漁獲量日本一のトビウオをはじめ、シイラやメダイなど屋久島近海で獲れた新鮮な魚をその日のうちに加工し、屋久島のサクランチップで仕上げる燻製専門店。まるで生ハムのようなしっとりとした食感が人気です。

[所在地] 屋久島町安房2407-239
[営業時間] 9:00~17:30 [定休日] 土・日曜・祝日
[電話] 0997-46-3797



東部

楠川・楠川
小瀬田・長峰・船行

Eastern

屋久島空港周辺のエリアで、戦国時代には、楠川に城があり、ここを拠点に統治を行っていました。空港利用の際に立ち寄りやすいスポットや、地域に根差した個性的な神社が見どころです。また気候的に適した場所が多いことから、近年ではお茶栽培が盛んなエリアでもあります。



里で見られる屋久杉！

船行神社 (船行) [MAP②]

お産の神様を祀る神社。境内には杉の巨木「船行大杉」があります。通常、屋久杉は標高500m以上の山間部に生育していますが、1998年の調査で、船行大杉は里にある最大級の屋久杉と日本樹木医会に認定されました。

[所在地] 屋久島町船行出口ノ上9-2

集落の氏神様

楠川天満宮 (楠川) [MAP①]

創建は不明ですが、古文書の記述から、江戸時代中期にはあったと考えられています。菅原道真を祀っていますが、学問の御利益だけでなく、楠川集落の氏神様として、海難防止や航海安全での信仰も集めています。

[所在地] 屋久島町楠川182



石段の先には海が

小瀬田神社 (小瀬田) [MAP③]

大国主命を祀る神社。かつては明儀神社といい、海辺で禊をしてから参拝を行っていたと言われていました。拜殿前の赤い鳥居の先には海へとつながる階段があり、満潮時には階段の途中まで満ちることも。

[所在地] 屋久島町小瀬田184-イ

かつての屋久島経営の拠点

楠川城跡 (楠川) [MAP④]

1524年、種子島氏が屋久島経営の拠点として築城した山城。文献上、島最古の中世城郭の一つで、日本で初めて火縄銃が実戦に使用された場所とも言われています。城跡への入口は、1973年に楠川の小学生がタイムカプセルとして作ったドラえもんが目印です。

[所在地] 屋久島町楠川 (楠川)バス停から徒歩約5分



屋久島の自然が育んだ胃腸薬

老舗恵命堂 (楠川) [MAP⑤]

屋久島に自生していたショウガ科の植物・ガジュツを主原料とした胃腸薬「恵命我神散(ケイメイガシンサン)」の製薬工場。事前の予約で工場見学も可能です。

[所在地] 屋久島町楠川579-25 [営業時間] 9:00~16:00
[定休日] 土・日曜・祝日、GW・お盆・年末年始
[電話] 0997-42-3411



オーガニック屋久島茶

屋久島八万寿茶園・茶畑展望台 (長峰) [MAP⑥]

屋久島の東側、空港の正面にそびえる愛子岳の麓で、開園当初から無農薬・有機栽培のお茶づくりを続ける茶園。一周道路に面した店舗では、自慢のお茶のほか、屋久島のお土産や人気のソフトクリームも販売。店舗左手の道を上がると茶畑展望台もあります。

[所在地] 屋久島町小瀬田532-24 (店舗) [営業時間] 8:30~17:00
[定休日] 年末年始 ※荒天・イベント出店等で休業する場合があります。
[電話] 0997-43-5330

これぞ屋久島の香り！

島のかおりラボやわら香 (楠川) [MAP⑦]

地杉の間伐材を利用して作られたエッセンシャルオイルなどを扱う「島のかおり」専門店。雨が多い屋久島の杉は、本土の杉に比べ樹脂分が多く、香りも豊かと言われています。オリジナルのアロマスプレーづくり体験もできます。

[所在地] 屋久島町楠川1471-5
[営業時間] 土・日曜 12:00~17:00 ※平日は事前予約制
[電話] 0997-42-0109
※6・10・2月は島外イベント開催のため土・日曜が休みの場合あり。



屋久島の森を感じさせるアロマオイル

空港近くでの一休みに！

しまなみキッチン (長峰) [MAP⑧]

屋久島の美味しい！かわいい！を揃えた空港近くの土産物店「ぶかり堂」併設のカフェ。屋久島やその周辺の島の食材・加工品を使ったメニューが豊富で、口永良部島「港のとと屋」のおさかなハンバーグを使ったプレートメニューが人気。

[所在地] 屋久島町小瀬田719-12
[営業時間] 9:00~17:30 [定休日] なし
[電話] 0997-43-5623 (ぶかり堂)
※土・日曜・祝日は店舗混雑のため、電話以外での問い合わせを(詳細はぶかり堂HPにてご確認ください)。

北部

Northern

一湊・吉田・永田

屋久島北部から北西部のエリアで、一湊は「首折れサバ」に代表される漁業の盛んな集落。隣りの吉田は平家の落人伝承で知られる集落で、「屋久島最古の集落」とも言われています。また永田はウミガメの産卵地でもある島唯一の美しい砂浜が見どころです。



写真提供：(一社) 屋久島観光協会



北太平洋最大のアカウミガメの産卵地 永田浜 (永田) [MAP①]

永田集落に位置する「前浜」、「いなか浜」および「四ツ瀬浜」の総称で、風化した花崗岩の白砂が広がります。永田浜はウミガメの産卵地としても知られ、ピーク時には一晩に20頭以上のウミガメが産卵に訪れます。

[所在地] 屋久島町永田 (いなか浜/バス停からすぐ)

※ウミガメ保護のため、5/1~8/31の夜間

(19:30~翌朝5:00)は永田浜への立ち入り制限あり。

産卵を観察したい場合は、「ウミガメ観察会」にご参加ください。

実施時期/例年5月中旬~7月中旬

永田ウミガメ連絡協議会 (電話 0997-45-2280)



写真提供：屋久島町

眼下に東シナ海、正面に口永良部島を望む絶景 屋久島灯台 (永田) [MAP①]

明治30年に建てられた、屋久島西端の永田岬にある白亜の灯台。現存する明治期灯台としては最南部に位置し、100年以上にわたり近海の安全を見守ってきました。

[所在地] 屋久島町永田 (永田集落の中心部から車で約5分)

※灯台の中には入れませんが、外観の見学は自由。



人里と山との境界

横河渓谷 よっこけいこく (永田) [MAP②]

永田集落の奥、永田川の中流域にある渓谷で、夏には花崗岩の大岩が作り出した自然のプールで水遊びができるスポット。また古くから人里と山を分ける神聖な場所とされており、かつては岳参りの帰路、ここで禊払いを行い、里へ戻ったと言われています。

[所在地] 屋久島町永田 (永田バス停から徒歩約25分)



巨石のある風景

花崗岩の巨石群・森山神社 (吉田) [MAP④]

吉田集落には花崗岩の巨石が点在しており、花崗岩の隆起によって生まれた、屋久島ならではの景観が広がります。森山神社はその巨石群に抱かれるように鎮座し、伝承によれば、神社前の砂浜「下の浜」は、平家の落人が屋久島で最初に上陸した地とされ、別名「浜神社」とも呼ばれています。 [所在地] 屋久島町吉田 (神社は吉田バス停からすぐ)



岳参りゆかりの神社

永田嶽神社 (永田) [MAP⑥]

15世紀末、岳参りの礎を築いたと言われる日増上人が滞在し、永田岳に登拝したとされる神社 (当時は神社の前身である長壽院)。現在でも永田集落の岳参りでは、永田嶽神社に参拝してから登り始めます。

[所在地] 屋久島町永田2797



漁業のまち一湊の氏神様

八笠嶽神社 (矢筈嶽神社) (一湊) [MAP⑦]

矢筈岬の洞窟にある神社で、地元では「八幡様」と呼ばれています。「正八幡大菩薩」と刻まれた黒石を見つけたことをきっかけに建立されたと言われ、洞窟に入った猫が、種子島の熊野神社で発見されたという伝説も残っています。

[所在地] 屋久島町一湊2292

島内最大の海水浴場 一湊海水浴場 (一湊) [MAP⑦]

天然の入江は波が穏やかで、水質の良さでも知られます。シーズンには出店もあり、多くの海水浴客で賑わいます。またダイビングポイントとしても有名で、大きなサンゴや色とりどりの魚たちと出会えます。

[所在地] 屋久島町一湊 (矢筈バス停からすぐ) [海水浴場開設時期] 例年7月中旬~8月



写真提供：屋久島町



塩で食べる豆腐が絶品!

柴とうふ店 (永田のとうふ) (永田) [MAP⑧]

屋久島の美味しい水で作った「永田のとうふ」で知られる豆腐店。永田集落の高台にあり、木綿豆腐とできたて豆乳、それときらず揚げと呼ばれるおからのお菓子が付いた、イートイン限定の「柴セット」が人気です。

[所在地] 屋久島町永田1377-2 [営業時間] 8:00~17:00 (無くなり次第、終了)

[定休日] 日・月曜・年末年始、他臨時休業あり [電話] 0997-45-2048

天然樟脳の製造所 くすのきガレージ (一湊) [MAP⑨]

屋久島産のクスノキと水だけで、天然樟脳とエッセンシャルオイルを製造しています。樟脳の製法は16世紀に日本に伝わったとされ、薩摩藩の特産品として莫大な利益をもたらし、幕末政変の原動力になったとも言われています。

[所在地] 屋久島町一湊2281-8

[電話] 090-7825-9994 ※工場見学の際は事前連絡を。



南部

Southern

① 尾之間・
麦生・原・小島

屋久島の南部・南東部に位置し、島の中でも比較的温暖なエリア。そのため、たんかん、ぼんかんなどの栽培も盛んです。「東洋のmatterホルン」とも呼ばれるモッコム岳を望む景観も見どころです。また屋久島を代表する温泉のひとつ、尾之間温泉も是非訪れたいスポットです。



南部地区



屋久島三大名瀑のひとつ

蛇之口滝 (小島) [MAP①]

落差30m・幅約100mの壮大な滝。尾之間温泉近くの登山道を約3.5km進むと、亜熱帯の森の中に花崗岩を滑るように流れ落ちる美しい滝が現れます。「遊歩道」と呼ばれていますが、実際は登山道ですので、しっかりとした装備で。

〔所在地〕屋久島町小島(蛇之口滝)

※遊歩道入口は尾之間温泉駐車場横(屋久島町尾之間1291)



地元で愛される名湯

尾之間温泉 (尾之間) [MAP②]

開湯は今から約350年前、鉄砲で撃たれた鹿が傷を癒していたことから発見されたと伝わっています。泉質は単純硫黄泉で、49℃とちょっと熱めの源泉をかけ流しています。向かいにはカフェ「サロン湯の峯」があり、豆乳ソフトクリームが人気です。

〔所在地〕屋久島町尾之間1291

〔営業時間〕7:00~21:00(月曜は12:00~)

〔定休日〕月曜午前中 [電話] 0997-47-2872

日本仏教の礎を築いた

鑑真ゆかりの地・尾之間 [MAP③]

天平勝宝5年(753)、6度目の挑戦でようやく来日を果たした唐僧・鑑真が初めて日本の土を踏んだのが屋久島でした。上陸地はいくつか伝承がありますが、そのうちのひとつが尾之間集落の「ミヤカタの浜」と言われており、記念碑が立っています。

〔所在地〕屋久島町尾之間

(記念碑は中野バス停より徒歩約10分)



ミヤカタの浜

鎖国下の日本に影響を残す

神父シドッチ上陸記念碑・

シドッチ上陸地展望タワー (小島) [MAP④]

シドッチ(シドッチとも)は1708年、布教のため屋久島に上陸したカトリック司祭。捕らえられた後、江戸に護送され、死ぬまで幽閉されました。シドッチへの尋問をもとに新井白石がまとめた『西洋紀聞』は、鎖国下の日本における西洋理解に大きな影響を与えたとされています。東京小石川の「切支丹屋敷」に幽閉されていたシドッチは、1714年、47歳で息を引き取りました。その300年後の2014年、屋敷跡地での発掘調査で人骨が出土。DNA鑑定の結果、シドッチの遺骨である可能性が極めて高いことが分かり、大きな話題となりました。上陸記念碑の200mほど手前、シドッチ記念教会の奥には、「第4回あなたが選ぶかごしま景観大賞」で大賞受賞のシドッチ上陸地展望タワーがあり、夕日の絶景スポットとしておすすめです。

〔所在地〕屋久島町小島(小島バス停から徒歩約5分)



デザイン設計:ウィリアム・ブラワー



良縁祈願の「夜籠り(よごもり)」

保食神社 うけもちじんじや (尾之間) [MAP⑤]

五穀豊穡を願う倉稲魂神を祀る神社。屋久島南部には「夜籠り」という行事があり、尾之間ではここ保食神社で行われます。夜籠りとは若い男女が中心となり、神無月に留守をする神様の見送りとお迎えをする行事で、かつては若い人たちの貴重な出会いの場だったそうです。

〔所在地〕屋久島町尾之間977-1

お土産も豊富に揃う直売所

ぼん・たん館 (麦生) [MAP⑥]

屋久島特産の柑橘類「ぼんかん」、「たんかん」にちなんで名付けられた直売所、島の農産物や加工品をはじめ、お土産や工芸品などが揃います。滝が直接海に流れ落ちるトローキの滝の展望所もすぐそばです。

〔所在地〕屋久島町麦生898-2 [営業時間] 8:30~17:30

〔定休日〕年末年始 [電話] 0997-47-2557



メイド・イン・屋久島がテーマのおやつ工房&カフェ

やくしま果鈴 (尾之間) [MAP⑦]

モッコム岳を眺めながらゆっくりと過ごせる店内で、島の素材を使ったスムージーやジュース、珈琲、手作りの焼き菓子が楽しめるお店。看板メニューの「屋久島スムージー」は抜群のフルーツ感が魅力。お土産には「フィナンシェヤクシマーノ」が人気です。

〔所在地〕屋久島町尾之間672-1 [営業時間] 10:00~17:00 [電話] 070-8940-6721 [定休日] 日・月曜(イレギュラーあり。公式インスタグラムにて確認を)



南部

Southern

②平内・湯泊・栗生・中間

島の南部から南西部にかけてのエリア。かつての琉球航路の要衝で、またカツオ漁でも栄えた港町・栗生をはじめ、石垣の家並みや小径での散策が楽しみな中間、海辺の露天風呂が人気の湯泊・平内など、個性的な集落が揃います。

南国風情を感じる 中間ガジュマルと集落内石垣

中間 [MAP①]

中間は島の南西にある集落で、入ってすぐの中間橋のたもとには、樹齢500年と言われる巨大な「中間のガジュマル」があります。傾斜地のエリアでは、明治期に地元の石工・清水伊太郎らが造った石塀や石垣の家並みが残っており、南国らしい景観をつくっています。

[所在地] 屋久島町中間 (中間バス停から徒歩約5分)



海辺の温泉で 屋久島時間を満喫

いずれも地元の人々の湯治場として古くから利用されてきた温泉で、波の音を聞きながらの湯浴みは屋久島ならではの体験です！



野趣あふれる露天風呂 湯泊温泉 [湯泊] [MAP②]

湯泊の浜辺に湧く天然の露天風呂。波音と夕日に包まれ、海を間近に感じながら入浴できる温泉です。水着・下着での入浴はNG、女風呂に限り湯浴み着の着用ができます。脱衣所は駐車場横です。

[所在地] 屋久島町湯泊1714-28

[営業時間] 24時間利用可能 [定休日] 無し

入れるのは干潮時だけ！ 平内海中温泉 [平内] [MAP③]

湯泊のお隣り、平内集落にある天然温泉。干潮時のわずかな時間だけ現れる秘湯で、浴槽は磯のくぼみを少し深くしたただけなので、波がそのまま流れ込んでくる浴槽も。男女混浴で、水着・下着はNG、バスタオル巻きや湯浴み着はOKです。脱衣所はありません。

[所在地] 屋久島町平内 (平内海中温泉バス停から徒歩約10分)

[営業時間] 1日2回の干潮の前後約2時間 [定休日] 無し



島の暮らしを伝える

平内民具倉庫 [平内] [MAP④]

その名の通り、平内集落にある民具の倉庫。1985年頃から旧屋久町の集落や個人から寄贈された民具を、廃校になった中学校の講堂で収蔵・管理しているところで、月に2日だけ一般公開しています。

[所在地] 屋久島町平内 (八幡中講堂跡) [営業時間] 9:00~17:00

[公開日] : 毎月第2土・日曜

[電話] 0997-42-1900 (歴史民俗資料館)

屋久島に春を告げる

栗生神社 [栗生] [MAP⑤]

屋久島で益教神社に次いで古いとされる神社。毎年2月25日に行われる「浜下り」は江戸時代初期から続く神事で、御祭神のホホデノミコト (山幸彦) を神輿に乗せ、浜で禊を行うもの。地元では春を告げる祭りとして親しまれています。

[所在地] 屋久島町栗生1698

屋久島青少年旅行村 [栗生] [MAP⑥]

屋久島南西部・栗生川河口にある町営キャンプ場。ログハウスやキャンプ設備が整い、栗生川でのカヌーやSUPなどの自然体験も充実。絶景の夕日や満天の星空も楽しめるロケーションです。

[所在地] 屋久島町栗生2911-2 [開設期間] 4~10月

[電話] 期間中0997-48-2871、期間外0997-48-2807 (栗生生活館)



写真提供: 屋久島町

島の風景を器に込める

屋久島焼 新八野窯 [平内] [MAP⑦]

屋久島の自然をイメージした、鮮やかなブルーとグリーンが作品の特徴で、サンゴを作品と一緒に窯で焼く独自技法がこの色を生み出します。15種類のオリジナル釉薬の中から好きな色を選んで作る、陶芸体験も行っています。

[所在地] 屋久島町平内630-4 [営業時間] 8:30~17:30

[定休日] 不定休 [電話] 0997-47-2624



アップルパイが人気のベーカリー

くりおのくらし [栗生] [MAP⑧]

結婚を機に栗生集落で暮らしはじめた女性たちがパンやお菓子を作っているベーカリー。看板メニューは月に500個以上売れるアップルパイで、「お供え物のリンゴを活用したい」と考えた、地元のお寺の住職でもある社長のアイデアで生まれました。

[所在地] 屋久島町栗生1658 [営業時間] 11:00~15:00

[定休日] 水・木曜 [電話] 090-2420-8089



口永良部島

本村・湯向

人口は約100人で、その多くはフェリー港のある本村集落に暮らしています。訪問にあたって気を付けたいのが、島には公共交通機関が無いこと、また飲食店も無いため、移動手段や食事をどうするか事前の準備が大切です。また天候等により船が止まることもあるので、余裕のあるスケジュールがおすすめです。



口永良部島

口永良部島(くちのえらぶじま)は屋久島からおよそ北西約12キロ、1日1便のフェリーに乗ることで行ける火山島です。島の全域が「屋久島国立公園」「生物圏保存地域(通称:ユネスコエコパーク)」に認定されています。良質な温泉が湧き、周囲の海は黒潮の恩恵を受けてとても豊か。天然記念物エラブオオコウモリなど、希少な動植物にも出会えます。

山の神を鎮める

金峰神社(花尾神社) [本村] [MAP①]

山の神様である金山比古命、金山比売命を祀る神社。例祭は天保12年(1841)の大噴火があった旧暦の4月3日と6月15日で、6月のお祭りでは棒踊りと日の本踊りが奉納されます。境内には、お産の神様として、島津氏の祖・忠久の母親である丹後の局を祀る花尾神社もあります。

[所在地] 屋久島町口永良部島1224



写真提供: 口永良部島観光サイト

西郷隆盛ゆかりの資料も展示

口永良部歴史資料館 [本村] [MAP②]

島唯一の学校である金岳小中学校の特別教室棟内にある資料展示スペースで、島内で使われていた民具や歴史書などの展示があります。その中には奄美大島からの帰途、口永良部島に立ち寄った西郷さんが、お風呂を借りたお礼に残した財布についての資料も展示されています。

[所在地] 屋久島町口永良部島656 [電話] 0997-49-2141

*校舎内の展示スペースなので見学の際は予め金岳小中学校へご連絡ください



島のお魚屋さん

港のとと屋 [本村] [MAP③]

口永良部島で初めてできた水産加工場。島の鮮魚や加工品などを販売しています。おすすめはもちもちとした食感のブダイを使った「おさかなハンバーグ」。屋久島のだいたい果汁を使ったソースとも相性がぴったり! 予約制でお昼のお弁当もあります。

[所在地] 屋久島町口永良部島373 [営業時間・定休日] 不定期

※お問い合わせ・お弁当の予約は公式HPから。



写真提供: 口永良部島観光サイト

口永良部島は活火山です。

2015年の噴火以降、口永良部島での噴火は発生しておらず、現在火山活動は静穏ですが、活火山であることに留意しての訪問をお願いします。万が一、噴火警報が発表された際は、対象範囲とレベルをあわせて確認し、適切な対応を取るようお願いします。口永良部島の「噴火警戒レベル」の詳細については気象庁のホームページをご覧ください。



気象庁HP「火山活動の状況(口永良部島)」

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/activity_info/509.html



2015年の噴火

写真提供: 口永良部島観光サイト

島ならではの個性ある温泉であたたまろう

口永良部島には、火山の恵みによる4つの温泉があります(一部、現在利用不可)。屋久島が非火山性のアルカリ性なのに対し、口永良部島は火山性の酸性で、さらにいずれの湯も泉質や効能が異なるのが特徴です。



島民憩いの場 本村温泉 [本村] [MAP④]

2008年7月に完成した温泉施設。休憩スペースもあり、島民もよく利用する温泉です。泉質は単純温泉で、鉄分が多いため、薄茶色をした湯が特徴です。源泉は約38℃のため、沸かし湯になります。

[所在地] 屋久島町口永良部島572 [営業時間] 16:00~19:30 [定休日] 月曜 [電話] 0997-49-2934



湯の花が舞う 湯向温泉 [湯向] [MAP⑤]

島の北側にある湯向集落で大切にされてきた温泉。泉質は含硫黄泉・ナトリウム・塩化物温泉で、透明な湯の中に湯の花が舞っているのが特徴です。2023年7月に建物が新しくなりました。

[所在地] 屋久島町口永良部島1739-2

[営業時間] 14:00~20:00 [定休日] 月曜

[電話] 0997-49-2100 (屋久島町口永良部島出張所)



ワイルド感ある 西之湯 [MAP⑥]

海辺に佇む漁師小屋のような建物に、女性優先の内風呂と男性優先の半露天風呂があります。泉質はナトリウム塩化物泉。源泉温度が約60℃と熱いので、お湯が冷めてくる17時以降がオススメです。

[所在地] 屋久島町口永良部島825-2 [定休日] 無し(時化の際には注意)

[営業時間] 17:00以降(※) ※17時以降に適温になるよう調節しています。時間外にはお湯がなく入れない場合があります。

屋久島の歴史と文化を感じる！モデルコース

祈りと暮らしの記憶を撮る！

文化の痕跡をたどる屋久島フォト旅



苔むした神社、岳参りへの道、山から海への水の流れ。屋久島には、人の営みが自然と共にあった証が、いまま随所に息づいています。写真家でもあるガイドがご案内するのは、そんな文化の痕跡を見つめなおす“被写体”としての屋久島。時を超えた風景を、あなたの感性で切り取ってみませんか。

● 原の益救神社

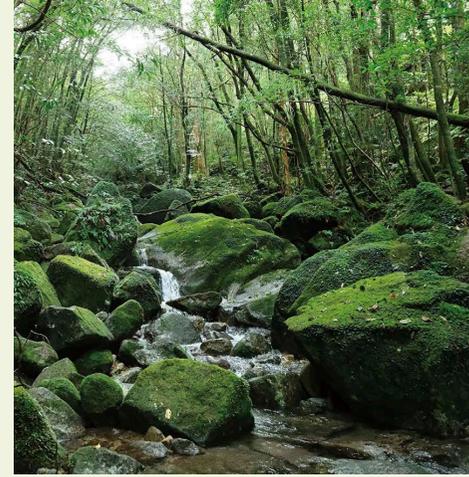
屋久島町原 721-2 車にて安房から約20分

益救の名を冠する神社のひとつ。境内には苔むした石段、亜熱帯の植物が育つ。背後には神山（森山）と呼ばれる丘があり、奥岳への垂直信仰と同時に里近くの森山を信仰する水平信仰として貴重な場所です。



屋久島の里エリアには、写真の被写体としても美しい場所が多数あります。

屋久島公認ガイド
古賀 顕司さん



岳参りの道、コケの森を写す。

● 安房前岳入口付近

屋久島町安房 ランド線標高600m

春牧区の岳参りの山、安房前岳。この山をあえて登らず登山口から5分以内の場所でコケ散歩。じっくりとコケを観察できるスポットです。あまり歩かずコケの森の写真を撮ることができます。

V字谷の渓谷、照葉樹林と川面を写す。

● 松峯大橋 屋久島町安房

町道にかかる高さ約80mの橋。上流側を見るとV字谷の渓谷、下流側は川面と海の水平線。照葉樹林を俯瞰で撮れるポイントでもあります。



9:00

10:00

11:30

13:00

15:00

16:00

苔むす参道、コケの道を写す。

● 麦生 大山神社

屋久島町麦生 728-23

具体的な来歴は定かではない神社。大山という名から山の神を祭っていることがうかがえます。参道が一面コケに覆われており神秘的な雰囲気。ゆっくり時間をかけて光を待つと良い。美しい写真が撮れます。



里の森のガジュマル、亜熱帯の森を写す。

● 猿川のガジュマル

屋久島町安房 中橋バス停から徒歩約10分

車を5台ほどとめることができる駐車場から5分ほど歩くと、広がりがあるガジュマルに出会えます。そこに至る道もヘゴなど大型のシダが育ち亜熱帯の雰囲気を味わえます。



● または トローキの滝

屋久島町麦生

海に落ちる滝を写す。

ぼん・たん館から5分ほど歩くと、海に直接落ちる滝を見ることができます。背景にはモッコヨム岳がそびえ立ち、朝や夕方など光によって印象の違う写真を撮ることができます。



\\ おすすめランチ //

地魚のひつまぶしがお勧めの人気店

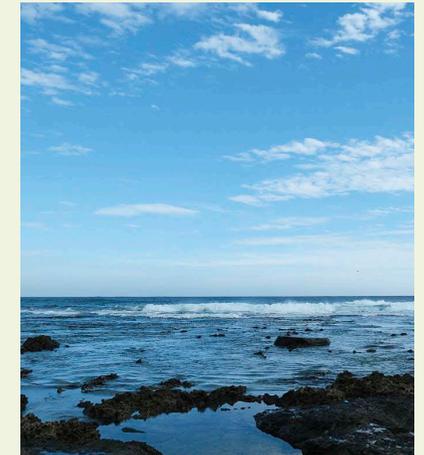
かたぎりさん 屋久島町安房 540-62

[営業時間] 11:00~15:00

[定休日] 日曜 [電話] 0997-46-4282



安房の一周道路沿いにあるお店。地魚のひつまぶしを唯一食べることができます。締めはさらりと食べられる、あご出汁のお茶漬けがおすすめ。人気店のため、予約をしておくのが安心です。



潮だまりに空を写す。

屋久島町安房 ● 春田浜海水浴場

夏は海水浴客でにぎわうポイントが、秋から春にかけては静かな場所に。風がない日は潮だまりに空が写り面白い写真が撮れます。

屋久島の歴史と文化を感じる！モデルコース



自然と共に生きる！

屋久島の暮らしの風景に触れる旅

屋久島の暮らしは常に自然と共にあります。島で暮らす人々が日常で見ている何気ない景色に、様々なストーリーが隠れていたり。美しい暮らしの風景を、ゆっくり訪ねてみてはいかがでしょうか。

● 牛床詣所

屋久島町宮之浦
牛床公園バス停より徒歩約10分

屋久島の里(暮らしの領域)と山(カミの領域)の境界線に位置する詣所。苔むす小さな石塔群は、先人たちの祈りの跡。人々の暮らしが自然と共にある証。そして、お社の周辺に立つスダジイやタブの巨木が、長年、ここが神域として守られてきたことを教えてくれる、小さいながらも美しい場所です。



街灯の少ない屋久島、
空気の澄んだ夜は
満天の星空も楽しみ！



屋久島公認ガイド
内室 紀子さん



● 永田岳と永田集落 屋久島町永田

永田集落の田園風景の奥にそびえ立つのは、屋久島で二番目に高い永田岳。特に、冬の晴れた日は雪をたたえた山肌を見ることができ、屋久島の自然の厳しさを感じる美しい風景となります。その景色を愛でながら、昔ながらの家々と水路が残る集落の散策もおすすめ。歩くときは、そこで暮らす人々への配慮は忘れないようにどうぞお願いします。



● 一湊漁港と赤灯台 屋久島町一湊

屋久島の真北に位置する小さな漁師町、一湊。漁船が並ぶ長閑な風景を眺めながら、その先の赤灯台まで散策するのがお薦め。途中、浜恵比寿に立ち寄ることも。そして赤灯台に近づくと、なんとこの灯台、真っ赤なタイルでできていることに気づくでしょう。そのレトロな可愛さを楽しみながら、ぜひ振り返ってください。大きな山々を背後に抱えた、小さな集落。人々の暮らしが、この自然の営みの一部であることが実感できます。

9:00

10:00

11:00

13:00

14:00

15:30

16:00

● 屋久島町歴史民俗資料館

屋久島町宮之浦 1593

愛称「れきみん館」。屋久島でいくつかある展示施設の中でも最もローカル色が強い資料館。入口では、ヤクシカの剥製が出迎えてくれます。「海に10日、里に10日、山に10日」と言われた、昔の島暮らしの様子や生活道具類が細やかに展示されています。屋久島の自然や暮らしにアニミズムをみた、山尾三省の詩を見ることもできます。



● 志戸子ガジュマル園

屋久島町志戸子 133-1



志戸子集落を海の風や潮から守る暴風・防潮林的な森。中に入ると、ユニークな形のガジュマルやアコウがそこかしこに。足もとには、クワズイモやオオタニワタリも育ち、南国ムードたっぷり。ガジュマル園の前の海岸を散策しても、気持ち良いですよ。

\\ おすすめランチ //

森のとなりの小さなカフェ

kiina 屋久島町志戸子 181-97

【営業時間】11:00~16:00 (L.O.15:30)

【定休日】日~火曜 【電話】080-8576-4830

ガジュマル園の隣にある、小さな古民家カフェ。オススメランチは、とびうおのつけあげを使った「kiinaサンド」。志戸子集落ならではのニラの入った、オーナー手作りのつけあげとパンの相性が抜群の美味しさです。手作りスイーツのカフェメニューも人気。



● 横河渓谷

屋久島町永田 永田バス停から徒歩約25分

永田集落を最深部まで進むと駐車場があります。そこから10分ほど歩くと、エメラルドグリーンの水が美しい淵に到着。花崗岩の大きな岩が心地よく、昼寝やお茶など、ゆっくりするには最適な場所。夏は地元の子どもたちも泳ぎにくる場所となりますが、流れに不用意に入り込まないなど、安全第一で楽しんでください。

● 東シナ海展望所

屋久島町吉田 白川バス停より徒歩約5分

屋久島一周道路で唯一のトンネルのそばにある展望所です。夕方、時間にゆとりがあれば、お隣の口永良部島や、薩摩硫黄島などの島々が浮かぶ東シナ海に夕陽が沈むまでのんびりしてみても良いかも。

